



子育てに追われて自分の時間がもてない

ゆったりとした気分で子供と過ごせる時間がある母親の割合

延長保育がなくて困る

代わりに育児してくれる人がいない

公園デビューしたいが、知り合いがいないのでできない

安心して預けられる施設が増える

育児を代わりにしてくれる人がいる(保育園、ヘルパー等)

夫が育児に協力しない

夫が子どもの前でタバコを吸う

・育児の大変さを理解し支えてくれる  
・夫が育児に協力してくれる

つい、子どもを叱ってしまい、虐待しているのではと思う

家事や仕事があまってイライラしてしまう

祖父母と同居だが、遠慮があって、気分転換ができない

・気分転換ができる  
・祖父母が育児中の母親の状況を理解し配慮することができる

部屋が狭くて、のびのび遊ばせられない

子どもを遊ばせる場所がない

アパートだから、うるさくできない

安全に遊べる場がなく子供のけがが心配

子供を安心してのびのびと遊ばせられる場所がある

病院に連れて行くタイミングがわからない

かかりつけ医をもち相談できる

近所に同じ年頃の子供がいない

公園デビューしたいが、知り合いがいないのでできない

同じ年頃の子を持つ育児中の母親同士の交流の場に参加できる

祖父母と育児方針が違う

相互理解ができる(学習の場がある・専門知識を得た上で判断等)

アトピーで食事が困る

・アトピーの食事が分かる  
・専門家の指導を受ける機会がある

母乳で育てたいのに、母乳が十分に出ない

母乳を出すためのケアをすることができる

母乳にこだわらずゆったりとした気持ちで育児ができる

自分の育児に自信がもてない

育児について相談する相手がいない

身長が小さい

言葉が遅い

夜泣きで困る

1歳になるのに、まだ歩けない

他の子と比べて言うことを聞かない

遊び食いをする

食が細くて心配

離乳食を食べない

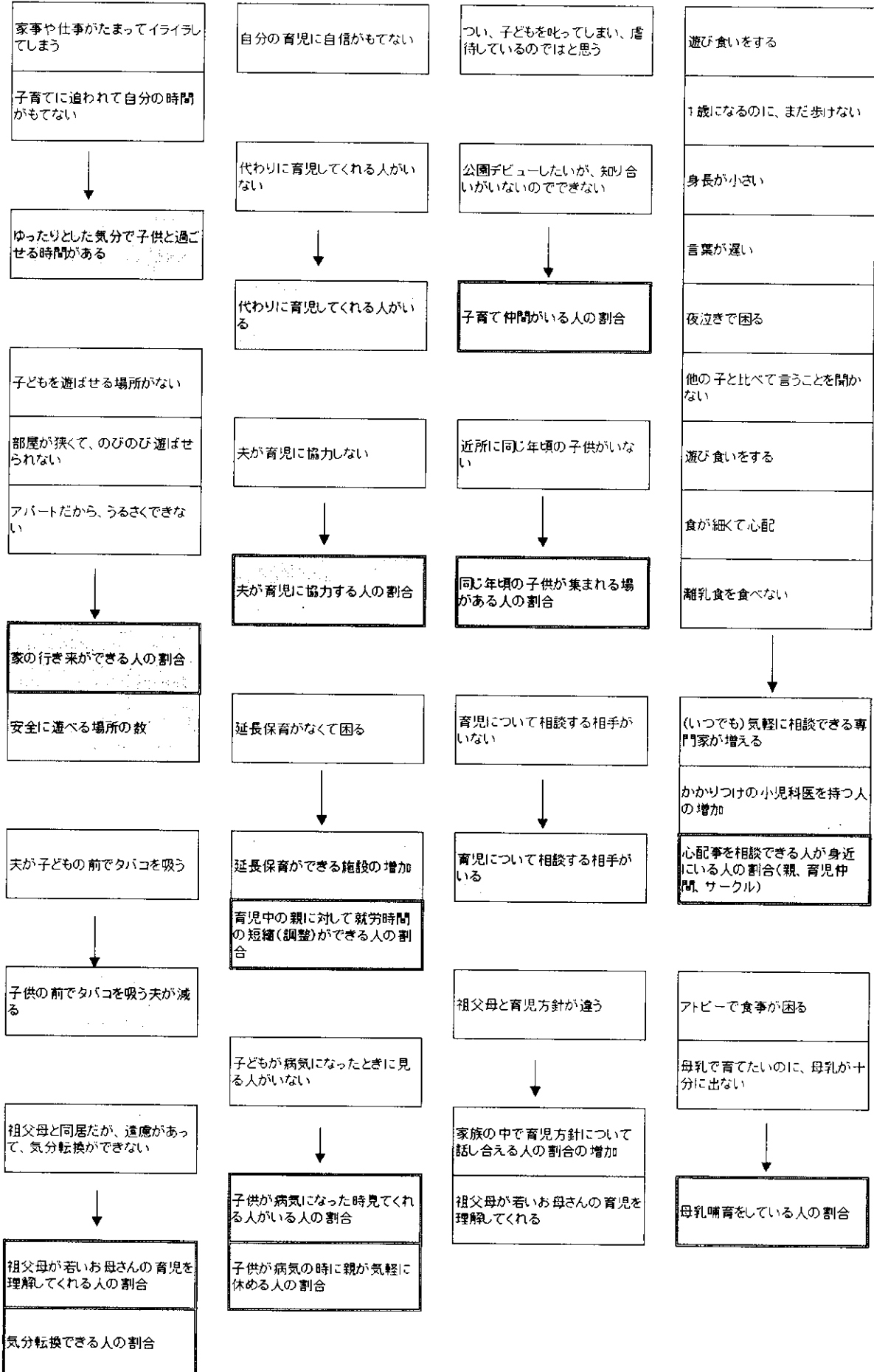
自分の育児に自信が持てない母親の割合

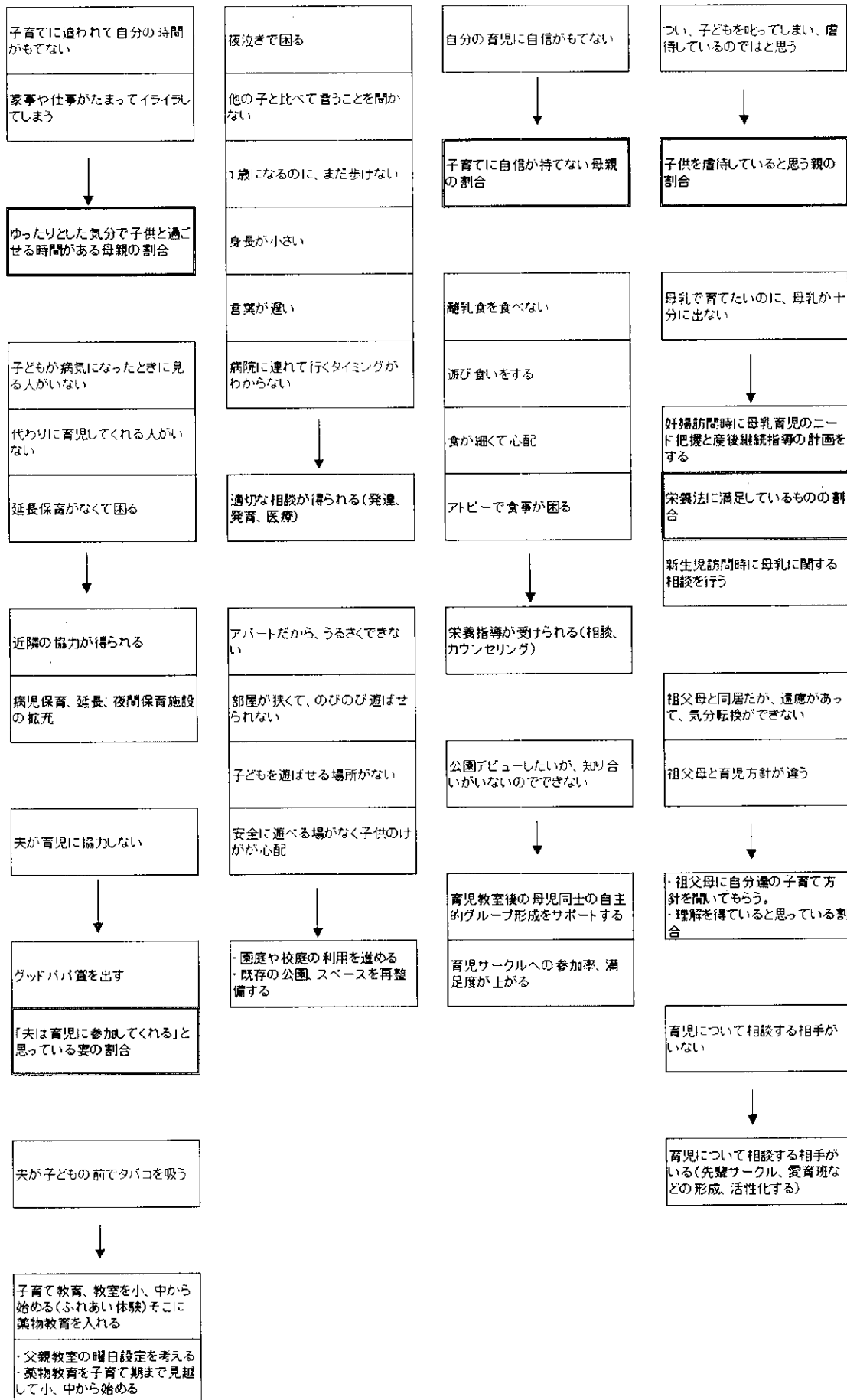
・情報交換の場をもつことができる  
・育児について相談する相手がいる

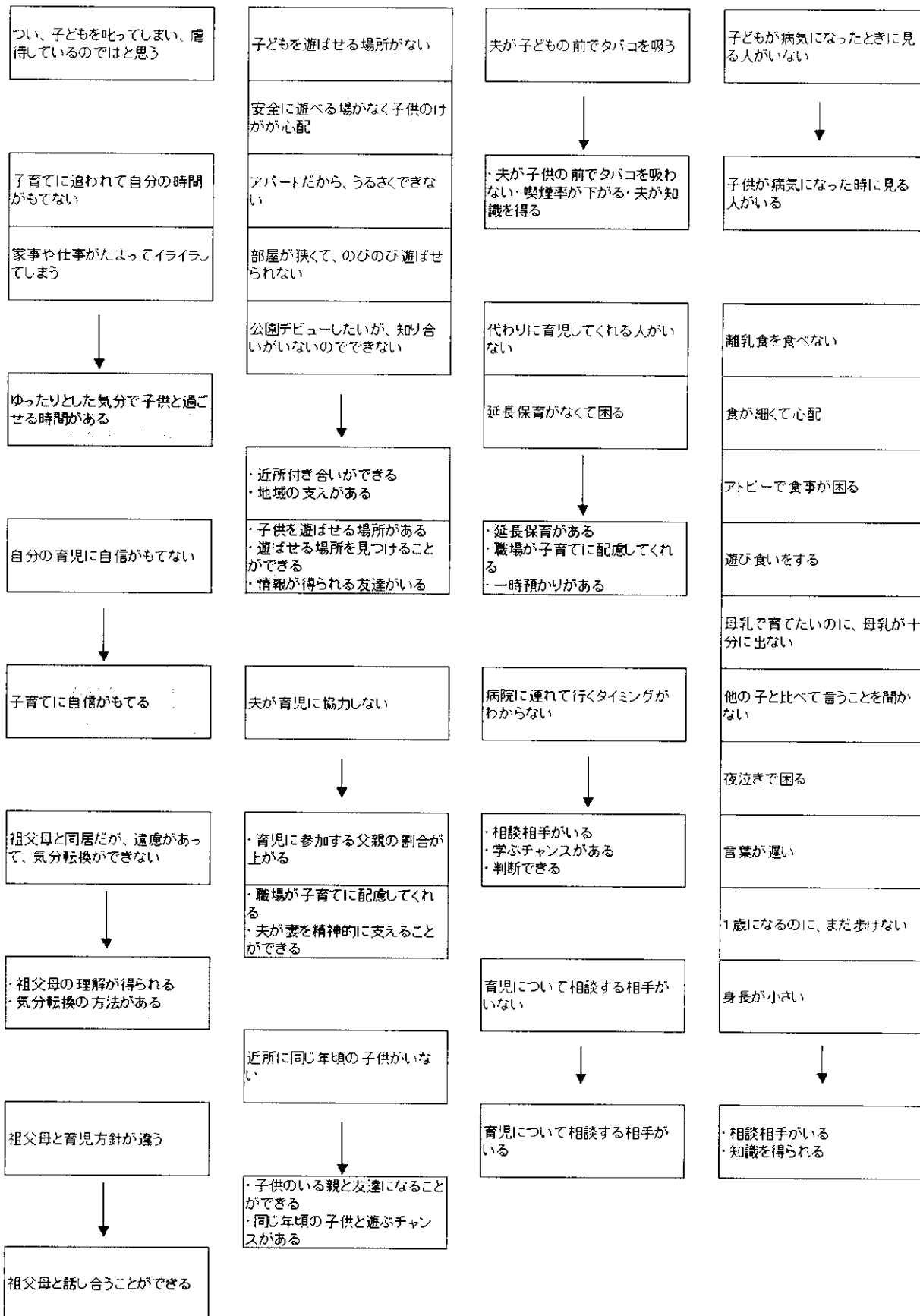
子供の発達段階等について学習、相談する機会がある

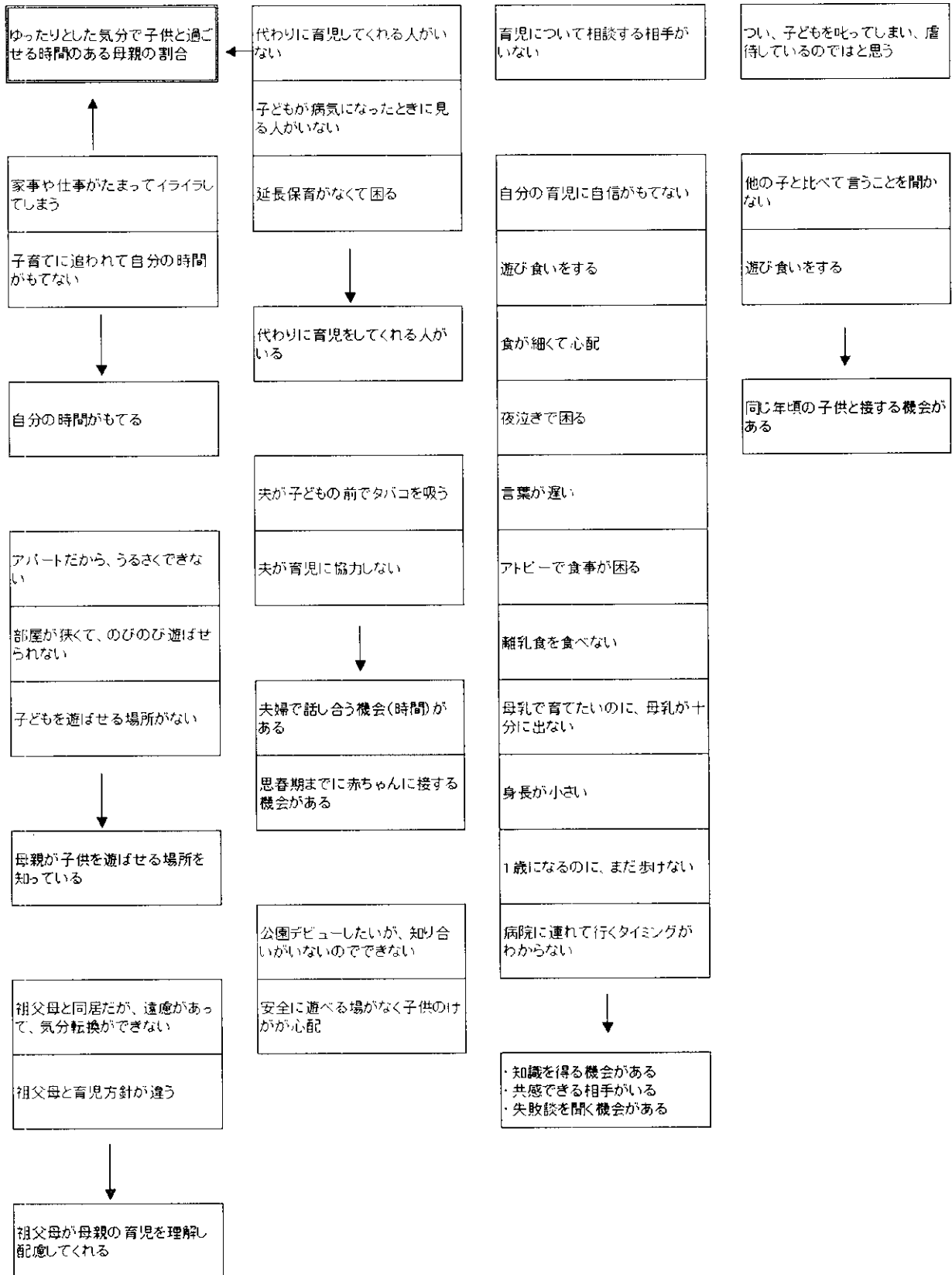
子供の発達段階について理解できる(個人差があることも含めて)

・不安を他者へ表出できる  
・専門家に相談することができる









グループワークのまとめとして、藤内先生より指標化の例が話された。だいたい今の作業により、大目標が3個、小目標が10数個出てくる。それぞれの目標に対する現状を把握し、国の現状と比較しつつ、それを達成するための取り組みを考えていくと、事業と目標が少し結びつきやすくなるように思う。一つの事業が複数の目標に結びついてくることもしばしばあるので、事業ごとの整理が大切になってくる。これが母子保健計画であるといえる。

最後に会場からいくつかの質問や感想があげられた。エンゼルプランと一緒に考えていく時に、これはという指標があったら教えて欲しいとの質問には、藤内先生から特に子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減の領域との兼ね合いが深いこと、松浦先生から学校保健の視点からは基本的な生活習慣の部分が必要であること、山縣から新たに調査をしなくても、住民の中ですでにあがっている問題から指標を考えていくことが大切であること等のコメントがだされた。

次に、方法は何となくわかり、すぐにも出来るように思うが、策定委員会の時点で、ここまで作ってしまった方がいいのかという質問が出された。これについては、藤内先生より策定委員会を意見集約の場としても良いし、課題別に整理をしたものを用意しても良いと思うとのお答えがあった。

また、実際にグループワークでやってみたが、子どもの姿が見えない、もっと子どもが元気に成長していく姿が見られるような計画であってほしいように思うとの意見が出された。これについては、今回は母親の心配事というネガティブな部分から意見を集約していったので、元気な子どもの姿が見えにくいという弱点はあると思う。指標を作った後に、本当にこれで元気な子どもが育っていくかな、という振り返りをして、足りない部分を足して行っていただくことも大事だと思うとのコメントがだされた。

さらに市の計画に国の指標を全て盛り込まなくてはいけないものなのかという質問には、国レベルの指標を踏まえて、という意味なので、市町村で必要だと思うものを取り込んでいく、というスタンスで取り組むことが大切だと思うとのコメントがだされた。

最後に、これまでの計画は住民の声からではなく、種々の統計データから出してきたものを指標

としていた。今日の研修会から、仕事に帰って一歩踏み出せそう。パワーをいただいた、との感想が出された。今回は主観的な指標をとりあげたが、これまでは客観的な指標が中心だったので、今日議論したようなものは指標となりづらかったと思う。どちらか、というのではなく両方あわせてみていくことが大切であるとのコメントがだされた。

司会の山縣より、今回の研修会において、目標とそれを達成するための取り組みとの間に具体的なステップを踏み出せるようなグループワークを体験できたのではないかと思う。それぞれの市町村に持ち帰っていただき、策定見直しのパワーとしていただければ幸いであるとまとめられた。

## VI. 参加者の感想

図1に参加者による研修会の評価を示す。いずれも5段階評価（とても5、普通3、あまり1）で、講義・グループワークの内容は良かったか、内容について理解できたか、興味が持てたか、新たな知識を得られたか、業務に役立つと思うか、の6項目について評価を得た。

いずれも4、5との回答が多くみられた。講義については73.9%、グループワークについては、56.2%が5と回答していた。また、90%以上の参加者が実際の業務に役立つと思うと回答していた。

表1に参加者の感想を示した。わかりやすかった、楽しかった、今後に生かしたい等の感想が多く寄せられていた。

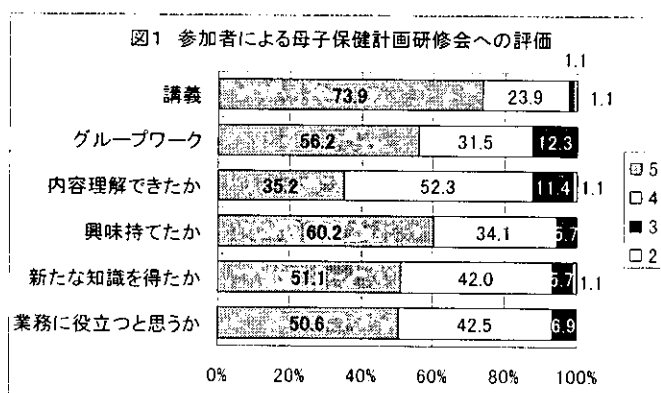


表1 参加者の母子保健計画研修会に対する感想

1 愛育会や子供会のボランティアリーダーが加わってくれとありがたい。
2 今までの計画が、本当に今子育て中のお母さん達が望んでいることや困っていることに即した計画だったのか疑問。機会がある時には、お母さん達とどんどん話をし、現状を理解したいと思った。
3 今までもやもやしていた部分が少し見えてきたような気がするが、再度検討し、自分の中で整理しなければ今後進めていけないことを実感した。

4 いろいろ自分や今までの活動を振り返る機会になった。ちょうど計画について考えている時なので、とても参考になった。やる気が出てきた。

5 エンゼルプラン、保健計画、健やか親子21等、計画が次から次へというイメージでしたが、落ち着いて考えてみたい。

6 既存の事業の見直し、データや事業からの指標、評価が大切であること、きちんと積み上げていける宝の山が身近にあると再確認し、やりっぱなしだったと反省した。健やか親子21についての理解にはまだまだ時間がかかるかもしれない。

7 今日の学びを忘れずに、これから策定する保健計画に活用したいと思っている。

8 業務の中に今日の手法を取り入れてやってみたいと思う。

9 具体的で演習を踏まえての研修だったので、すぐ実践できるものを持ち帰ることが出来そう。ただ現実を考えると、職場の理解が必要だと思う。策定から推進までのポイントとして、首長や職員への説明は大きいと思う。

10 具体的で良くわかりやすかった。即実践できそうだが、他職種や住民の意見等を取り入れた計画を作りたいと思う。

11 具体的な手法を学べ、良い経験となった。

12 具体的な手法を学べて良かった。

13 具体的な面と総合的な面があり、わかりやすかった上に、今後に生かせそう。

14 グループが管内ごとの設定だったが、人数が予定より多くなったため進行がやや難しかった。

15 グループ内が知っている人が多かったので、話しやすかった。開催時期をもう少し早くして欲しかった。

16 グループワークが楽しかった。幅広い考え方があることや、住民の声からの計画策定という考え方を学んだ。来年度の計画の見直しについて、今後の業務に役立てていきたい。

17 グループワークで悩むところもあったが、今までのように評価がしっかり出来ない方法ではいけないことも改めて勉強できた。ただ、保健所単位で講師の先生のようなスーパーバイザーが必要だとも感じた。

18 グループワークでは、自分の考える癖やまとめ方が見直せた。楽しくできた。

19 グループワークでは、住民の声から目標を設定するという新しい視点を学べた。日々住民の声をしっかりキャッチしていくことがまず第一歩だと感じた。

20 グループワークの内容は初めてのことで勉強になった。指標をあげていくことが難しいと思った。住民を巻き込んでいき、このような作業が出来れば良いと思う。

21 計画作りというどうしても大変という思いが強いが、関連者との話し合い、住民と共に、の必要性は感じている。まず、出来る部分から、既存事業の評価見直しをしっかりと行っていきたいと感じた。

22 計画作りのためのステップが踏み出せそう。

23 計画の立て方、まとめ方、視点の捉え方がわかった。目標の表現方法が難しいと思った。

24 計画の見直し、形作りではなく、計画作りの本当のゴールは何かということが再確認できてよかった。

25 計画立案のプロセスがわかった。住民の声を施策にどう反映させて行くかについての技法を学べ、勉強になった。

26 計画をきちんと立てなければと思う。住民と共にという面できっとやりがいが出来そう。

27 計画を見直すにあたり、どう行っていけばよいか見え

てきたと思う。しかし、まだ理解できていないところ（指標の出し方等）もあり、勉強が必要。また、できるかどうか心配。

28 健康日本21、健やか親子21の整合性について、わかりやすい説明で良かった。母子保健計画の幅の広さを消化することが出来た。特に国の示した指標を全て取り込まなくて良い、ということで安心した。

29 現在やっている事業の検証に参考にしていきたい。

30 研修会に楽しく参加できてよかった。いろいろ学べた。

31 現状において、自分の役割は何か、どうすればよりよいサービスが提供できるのかが随分クリアになった気がする。計画がより身近に感じられた。

32 講義はわかりやすかったと思う。まず、係内で取り組みについて話し合い、出来るところから気を付けてゆこうと思った。

33 午後のグループワークは気が重かったが、内容が話しやすく盛り上がってよかった。

34 これからの見直しにとっても役立つと思う。関係機関との連携の大切さを実感している。

35 実際の面のことを考えるととてもやりがいがあるだろうと感じた。やるのがいっぱいだが、出来るところから少しずつ出来れば。

36 実践者として藤内先生の話のを伺えてよかった。

37 実践に、となると行き詰まりそう。

38 指標の捉え方、考え方を学ぶことができた。

39 住民から出された声をもとに、市の保健計画を立てるために、声をたくさん聞くことの大切さを感じ、現状を知るために実態調査をしないとわからない部分もあると感じた。計画を立てるということはすごく大変なことで、重みのあるものだ改めて感じた。

40 住民の声（主観的な意見等）をどのように保健計画に生かして作成するか、まだじっくりこない。

41 住民の声を施策に反映する一つの手法として、また事業の評価指標を無理なく設定する方法として有効であると感じた。

42 主観的な内容をあまり考えないでいることが多かった。わかっているけどあいまいにしているところが多かった気がする。今後一つ一つ整理していきたい。

43 全国の計画を細かく分析して、説明してもらい、やれそうかな、やらなければ、という気になった。

44 楽しく学べ、また、肩の荷を下ろして計画が作れるような気がする。

45 楽しく学べた。今までは事業がすぐ出てきて、指標がなかったと感じた。

46 データベースを活用したい

47 どこから手をつけていいのか困っていたが、他の町の様子などを参考にしつつ手をつけてみたいと思った。計画＝手段ということを整理しておかなければ都思った。

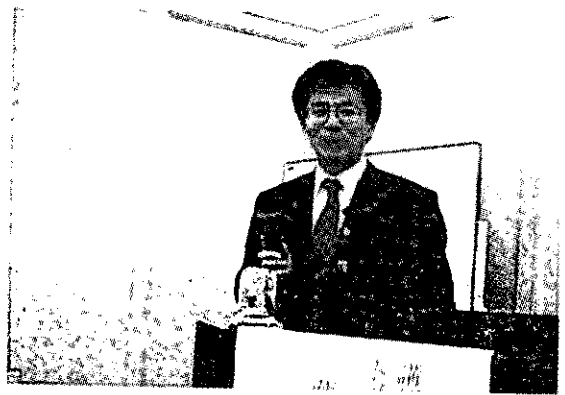
48 とても参考になるグループワークができた。

49 とても勉強になった。指標の立て方がわかり、今後役立てたい。

50 とてもわかりやすい講義だった。今まで計画の策定という国に言われたからという思いがあった。計画作りが目的でなく手段という言葉が印象深く、計画策定に意欲がわいてきた。

51 とてもわかりやすく計画に生かせるものと感動した。住民と共に作る計画、そのプロセスを住民、行政共に感じる事が出来たらと思う。より実践がしやすくなるように、計画作りの必要性を県から町長、課長に伝えて欲しい。

- 52 とてもわかりやすく計画をどんな風に立てていくべきか、いかに活用していくべきかがわかった。
- 53 何か始めようというパワーが持てた。明日につなげたいと思う。
- 54 何となく見えてきた気がする。いろいろな人を巻き込んだ参画は大変だと思う。このような場に課長等と一緒に参加できたらよいと思う。後は町へ帰ってどう生かしていくか、がんばりたい。小さな町だからこそ大変なこともあるが町の特性を生かしたい。母子保健は少子化時代の今こそ力を入れていきたい。
- 55 パワーをいただいた。
- 56 勉強になった。
- 57 保健所に所属しているので、保健所の支援についてももう少し詳しく聞いてみたい。
- 58 母子保健計画、健やか親子21について、知識を深められた。グループワークはとても楽しくためになった。
- 59 母子保健計画のみではなく他のものにも置き換えられる今後に役立つ考え方を教えて頂いた。
- 60 母子保健計画の見直しに勇気がわいてきた。
- 61 母子保健計画を議論を交わしながらまとめていくことは難しいと思うが、一つの事業について指標を持ち、評価していくことは出来そうだ。
- 62 難しく考えず計画に取り組みそう。
- 63 明瞭かつやわらかい姿勢の研修で学ぶものが多かった。
- 64 有意義な研修だった。
- 65 理解が十分ではなかったもので、後一回くらい研修があったほうが良いと感じた。
- 66 若い保健婦が多く、果たして現場で今日の研修が生かされるだろうかと思った。
- 67 わかりやすくてよかった。今後の仕事の中でも活用できたらいいと思う。



講師の藤内修二先生



グループワークに助言する山縣



グループワークの様子

## VII. まとめ

山梨県内の市町村・保健所から115名に及ぶ多くの参加者が集った。講演に加えて、グループワークといった参加型の研修会を行った。参加者の多くが、有意義であったと評価していた。



母子保健計画研修会 会場全体の様子